

津和野町内遺跡発掘調査報告書 1

平成18年3月

島根県津和野町教育委員会

例　　言

1. 本書は、津和野町教育委員会が平成17年度国庫補助事業として、旧日原町教育委員会が国庫補助事業で行った町内遺跡発掘調査（平成12、13、14年度）の報告書である。

2. 発掘調査は、島根県教育委員会文化財課の指導を得て、次のような体制で実施した。

旧日原町

調査指導	島根県教育委員会文化財課		
山口大学人文学部教授	中村友博		
元島根大学法文学部教授	田中義昭		
事務局	日原町教育委員会 教育長		
次長	大庭耕助（平成13年9月30日まで）	内谷澄男（平成13年10月1日から）	
	石川愛子（平成13年3月31日まで）		
	小松洋司（平成13年4月1日から）		
調査員	文化係		
調査補助員	清水留美子	清水克則	椋木智史
調査参加者	山出頼之	大庭 学	大井将正
	久保政幸	山本牧美	大庭和雄　　河良権二

3. 合併後の新津和野町は、次のような体制で実施した。

調査指導	島根県教育委員会文化財課		
事務局	津和野町教育委員会 教育長	斎藤数弘	
	次長	廣石 修	
	文化財係	米本 潤	
調査員	文化財係		
	中井将胤	宮田健一	
調査補助員	永田茂美	椋木牧子	濱浦健太

4. 発掘調査に際しては土地所有者をはじめとして、地元の方々に終始多大な協力をいただいたことに、ここに感謝の意を表したい。

5. 今回の調査において、現場あるいは縦集に利用した地図は、日原土地改良区の1/1,000の縮尺のものであり、位置図等は、森林基本図1/5,000の縮尺を使用した。また、調査地点名は全て大字や小字名をもって称することとし、末尾に調査地点を附して統一している。

6. 縦集にあたっては、中井将胤が行った。

7. 「日原町」は平成17年9月25日において、旧津和野町との合併に伴い「津和野町」と名称を変更した。本文中の「町内」はすべて「日原町」のことである。

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	平成12年度発掘調査概要	
第1節	下左鍾Ⅰ地点	5
第2節	下左鍾Ⅱ地点	7
第3節	相撲ヶ原Ⅰ地点	9
第4節	木ノ口Ⅰ地点	11
第3章	平成13年度発掘調査概要	
第1節	青原Ⅰ地点	14
第2節	青原Ⅱ地点	16
第3節	青原Ⅲ地点	18
第4節	青原Ⅳ地点	20
第4章	平成14年度発掘調査概要	
第1節	木ノ口Ⅱ地点	23
第2節	下横道Ⅰ地点	25

第1章 はじめに

1. 調査目的

この事業は、町内で頻発する民間事業・公共事業などの開発事業に対処するために、発掘調査を実施することによって、町内に所在する埋蔵文化財を適切に保護し、将来に向けて保存を図ることを目的とする。

2. 調査対象範囲

開発事業地内における地区において、周知の埋蔵文化財包蔵地の分布状況や地形等から、埋蔵文化財の存在する可能性が高い地点を対象とする。

3. 調査方法

前述した調査対象範囲において、約100m²に対して1ヶ所の試掘坑を設け、一つの試掘坑を2m×2m位置図の4m²の方形に設定した。また、掘削する深さは事業内容に伴い対応し、調査状況によって確認等が必要な場合は試掘坑を追加する。

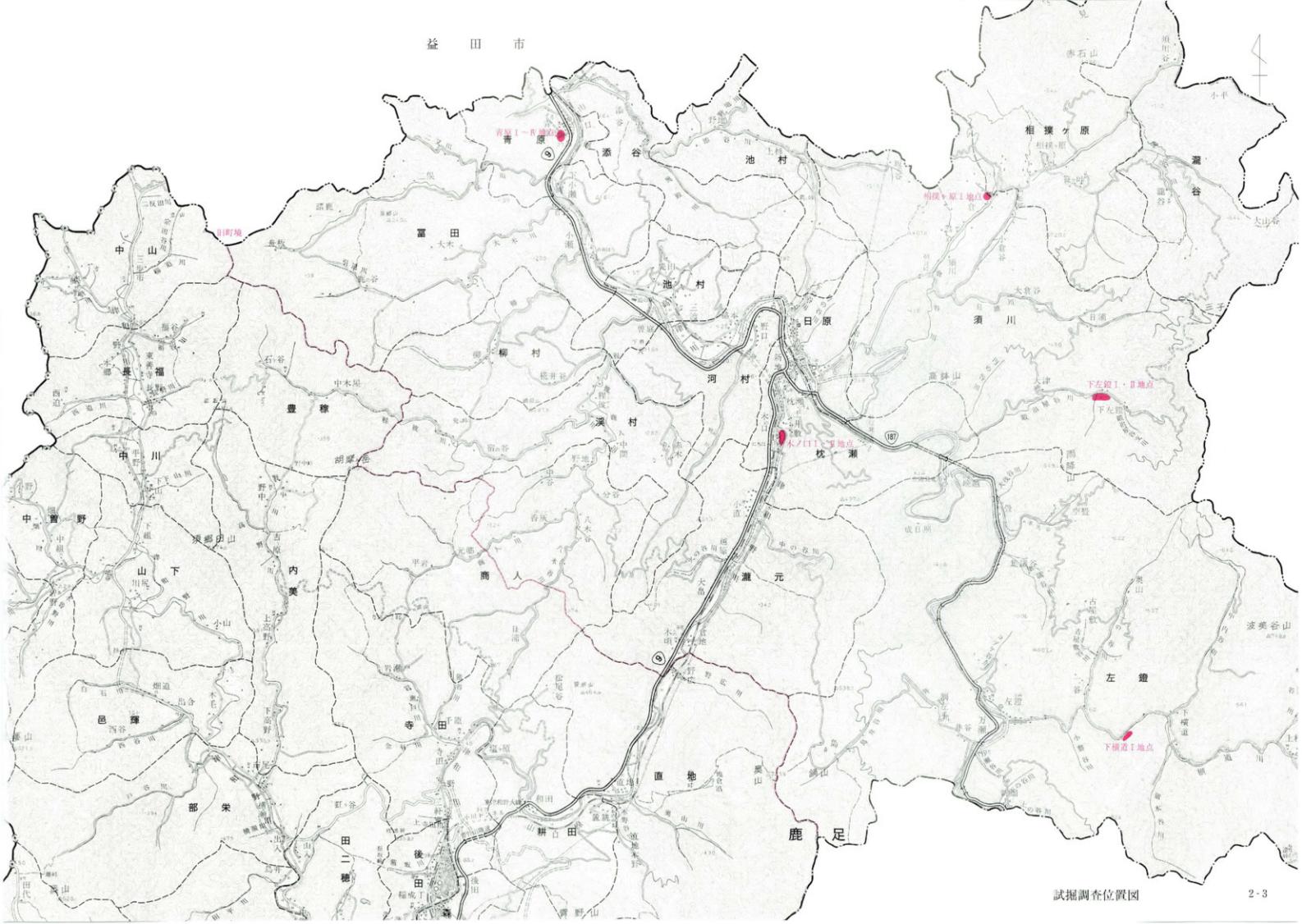


これらの調査によって確認された埋蔵文化財包蔵地について、工事の内容が地下遺構に与える影響の観点から、現状保存できない場合については記録保存のための発掘調査やその他の措置を講ずることとする。

4. 調査地点

調査地点名	調査地点	地権者	調査原因	年度
下左鏡Ⅰ地点	津和野町須川1753外	水津義迪 他	鹿足地区中山間総合整備事業	12
下左鏡Ⅱ地点	津和野町須川1639外	水津福好 他	鹿足地区中山間総合整備事業	12
相撲ヶ原Ⅰ地点	津和野町相撲ヶ原35外	村上勝俊	鹿足地区中山間総合整備事業	12
木ノ口Ⅰ地点	津和野町枕瀬426外	吉崎フミヨ他	鹿足地区中山間総合整備事業	12
青原Ⅰ地点	津和野町青原238-1外	古恵 勉	住んで幸せしまねづくり事業	13
青原Ⅱ地点	津和野町青原243外	古恵 勉	住んで幸せしまねづくり事業	13
青原Ⅲ地点	津和野町青原211外	長峯積雄	住んで幸せしまねづくり事業	13
青原Ⅳ地点	津和野町青原178-1外	長峯積雄	住んで幸せしまねづくり事業	13
木ノ口Ⅱ地点	津和野町枕瀬434-1	岸田晴明	個人住宅	14
下横道Ⅰ地点	津和野町左鏡2262-7外	島根県	一般県道匹見、左鏡線左鏡工区新世紀道路（生活関連）事業	14

益田市



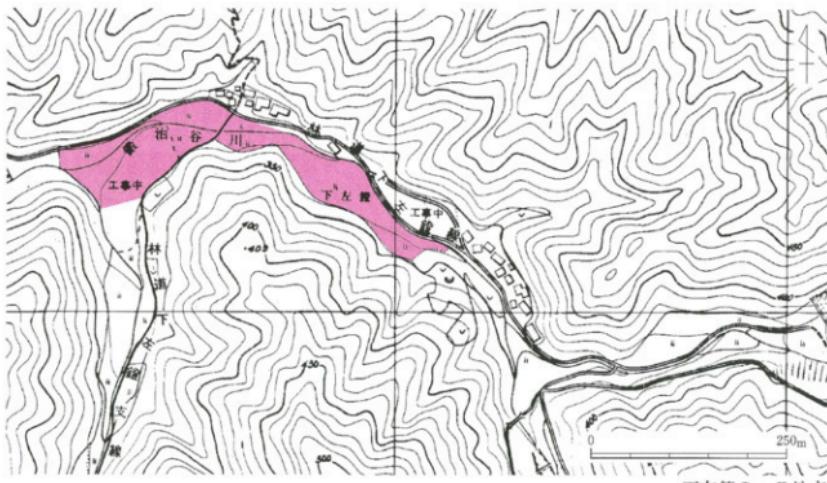
第2章 平成12年度 発掘調査概要



木ノ口 I 地点



相撲ヶ原 I 地点



試掘対象範囲図

第1節 下左鎧Ⅰ地点

①調査地点 烏根県鹿足郡津和野町須川1775外（標高 約323m）

②調査原因 鹿足地区中山間総合整備事業

③調査期間 平成12年9月27日～9月29日

④調査面積 16m²

⑤検出遺構 ナシ

⑥出土遺物 近代陶磁器片 2点

⑦調査所見 開発事業が圃場整備であるため、伐り土になる部分において基本的に試掘調査をすることにした。試掘坑は4ヶ所設け、西南側から北東側へA～D区とした。調査結果としてA～C区においては、水田耕作土の下層が50cm 大の石を多く含む河床といった状態であり、D区は地表から約70cm で河床であった。遺構の検出は確認できず、C区から近代陶磁器片が2点出土しただけであった。

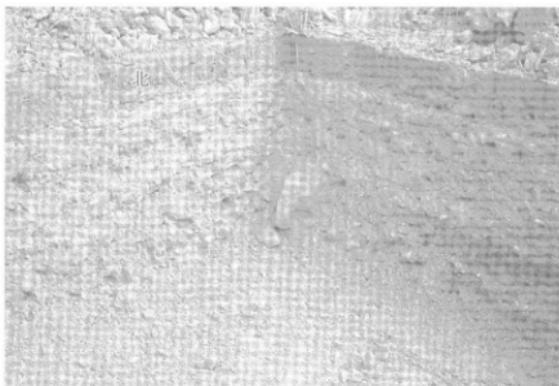
⑧指示事項 事業予定地内において、埋蔵文化財の存在は認められなかった。

⑨備 考

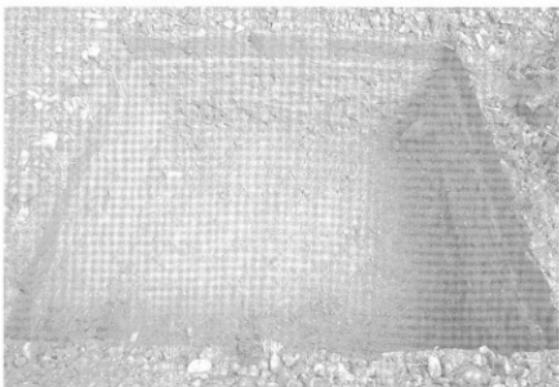




調査区全景（北から）



D区土壌（南西から）



D区完掘状況（南から）

第2節 下左鎧Ⅱ地点

①調査地点 烏根県鹿足郡津和野町須川1775外（標高 約336m）

②調査原因 鹿足地区中山間総合整備事業

③調査期間 平成12年10月2日～10月4日

④調査面積 8 m²

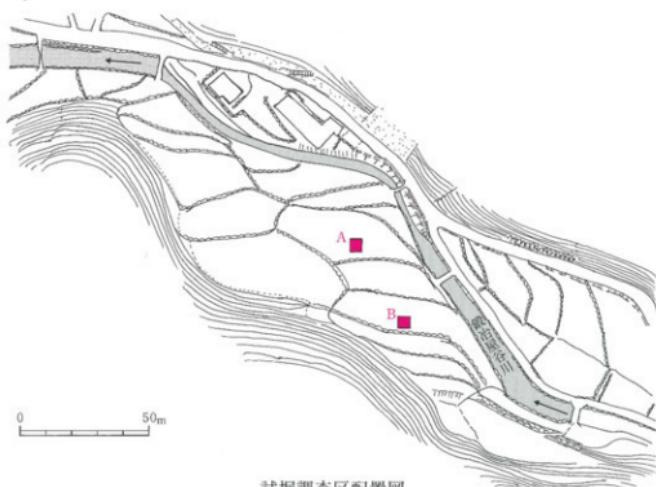
⑤検出遺構 ナシ

⑥出土遺物 ナシ

⑦調査所見 開発事業が圃場整備であるため、伐り土になる部分において基本的に試掘調査をすることにした。試掘坑は2ヶ所設け、北西側をA区、南東側をB区とした。調査結果は、A・B区とともに、水田耕作土の下層が河床といった状態であり、遺構や出土遺物の検出はされなかった。

⑧指示事項 事業予定地内において、埋蔵文化財の存在は認められなかった。

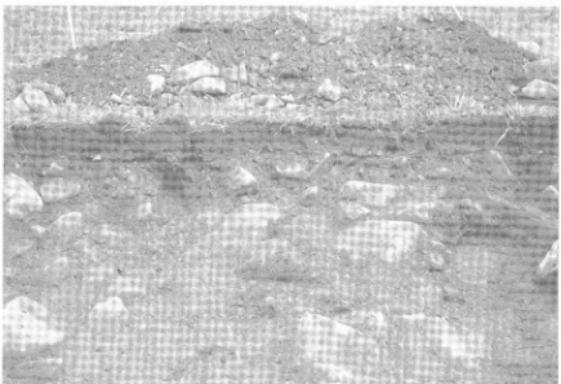
⑨備 考



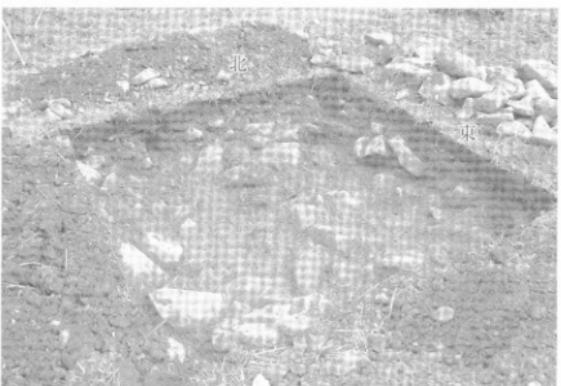
試掘調査区配置図



調査区全景（南東から）



E区上層（北壁）



E区完掘状況（南西から）

第3節 相撲ヶ原Ⅰ地点

①調査地点 島根県鹿足郡津和野町相撲ヶ原35外（標高 約227m）

②調査原因 鹿足地区中山間総合整備事業

③調査期間 平成12年10月4日～10月18日

④調査面積 24m²

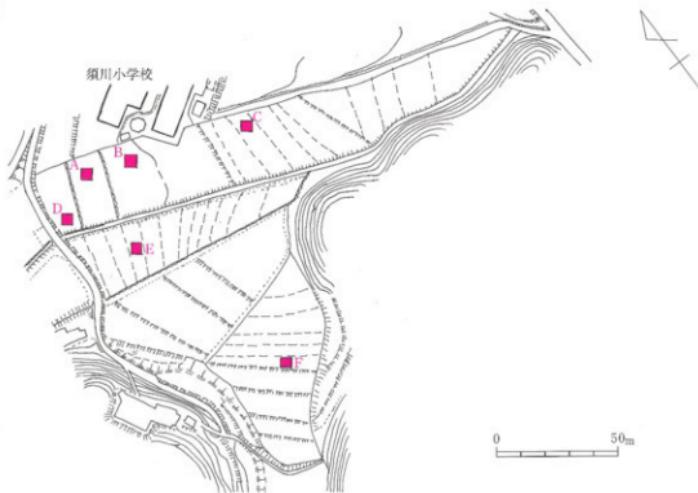
⑤検出遺構 ナシ

⑥出土遺物 ナシ

⑦調査所見 開発事業が圃場整備であるため、伐り土になる部分において基本的に試掘調査をすることにした。試掘坑は6ヶ所設け、北側からA区～F区とした。調査結果として、水田耕作土の下層面が灰暗褐色粘質土であり、少なくとも今回調査した1mの深さではこの層が続いていた。また、この地は戦前まで沼地であり、遺構や出土遺物の確認もされないことから、遺跡が存在している可能性は低いと判断した。

⑧指示事項 事業予定地内において、埋蔵文化財の存在は認められなかった。

⑨備 考



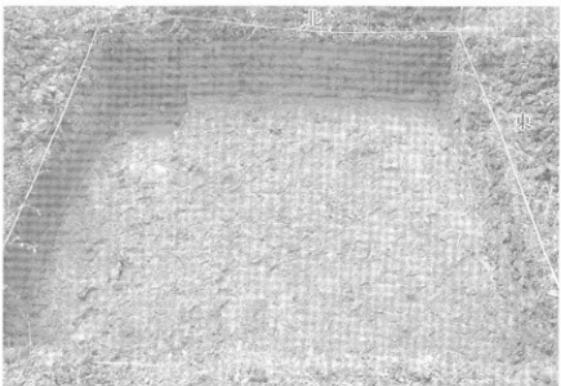
試掘調査区配置図



調査区全景（西から）



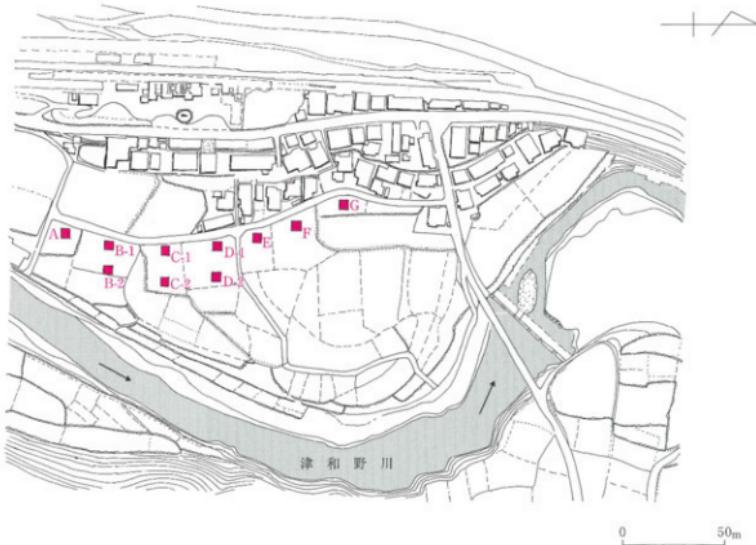
F区土層（南東から）



F区完掘状況（南から）

第4節 木ノ口I 地点

- ①調査地点 烏根県鹿足郡津和野町枕瀬426外（標高 約71m）
②調査原因 鹿足地区中山間総合整備事業
③調査期間 平成12年10月19日～11月20日
④調査面積 40m²
⑤検出遺構 ナシ
⑥出土遺物 石器類ビニール1袋 繩文土器ビニール1袋 弥生土器ビニール1袋
陶磁器類ビニール1袋
⑦調査所見 開発事業が開場整備であるため、伐り土になる部分において基本的に試掘調査をすることにした。試掘坑は10ヶ所設け、南側から北側へA区～G区とし、遺跡の広がりを確認するためB・C・D区の東側へ3ヶ所設けた。A・C・E・F・G区については遺構や出土遺物の検出はされなかった。
B・D区においては、地表から50～70cmの深さの第3層暗灰褐色土、第4層茶褐色土から繩文・弥生土器、石器、中世陶磁器類などが出土した。しかし、狭い範囲の調査区のため遺構は検出できなかった。なお、70cm以下の層にも遺物包含層が続くと考えられた。
- ⑧指示事項 事業予定地内において試掘調査の結果、繩文・弥生時代の遺跡であると判断した。事業によって現状を掘削する約400～500m²の範囲を発掘調査し記録保存する必要がある。
- ⑨備 考 萬世溢遺跡として平成13年度に発掘調査を実施した。

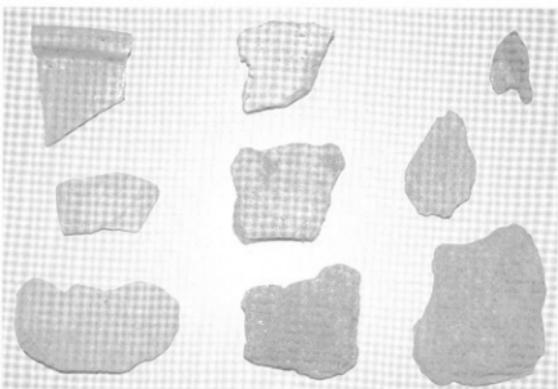




調査区全景（北から）



D-1 区土層（南壁）



出土遺物